

# 自然観察会 「森を舞うホタルたち」 夜の森を探索

## 江戸川大学卒業生が案内役

江戸川大学卒業生の齊藤裕さんはNPOさとやまの一員としてオオタカが生息する流山市にある市野谷の森を中心に、森の草刈りや生物調査、自然観察会などの活動を行っている。7月30日の自然観察会のテーマはホタルとセミの羽化。夜の西初石小鳥の森探索の参加者は62名だった。(取材・撮影: 長谷川大成)

齊藤さんは子供の頃から 関心を持った。江戸川大学 環境教育を学んだ。流山市 自然や生物が好きで、高校 環境デザイン学科(現: 現 都市化による鳥類の変化 3年生で受けた環境問題の 代社会学科) 在学中は吉田 について研究し、森林面積 授業で生態学という分野に 正人先生のゼミで生態学・ の大きさに比例して野鳥の



セミの羽化について説明する齊藤さん



「これなあに？」齊藤さんがセミの抜け殻について説明している。



18:00 に初石公民館に集合場。



これから西初石小鳥の森に入る。こどもたちにとっては、冒険だ。



ホタルの説明をする齊藤さん

ホタルは目をこらさないとみえてこない。



写真にはほとんど写らないほどの儂い光。日々の暮らしの中で人工の光に目が慣れてしまっているせいか、肉眼でも目をこらしてようやく捕えられる。その儂さがホタルの最大の魅力かもしれない。実際に足を運んでその光を見た人だけが感動できる。



夜の森は懐中電灯が必須だ。日中とは全く異なる姿を現す。

「市野谷の森が江戸川大学の学生にとって身近な存在となり、NPOさとやまの活動に興味をもった学生には積極的に参加してほしい」と齊藤さん。  
今回の自然観察会は12月4日、「野鳥」をテーマに行われる。詳細はNPOさとやまのウェブで。www.niposatoyama.com/

種類が増えることを明らかにした。

また江戸川大学内のサークル「環境エコロジカル ネットワーク愛好会」の創立メンバーとして生物調査や「ゴミ拾いなど様々な環境保全活動を行った。

卒業後、千葉県立中央博物館での研究協力員などを

経て、現在は環境コンサルタント会社に勤務し魚介類などの分析をしている。大学に入ってからのゼミでの研究、野鳥調査・解説員のインターンシップなどを通じて活動の輪が広がり、人と接する楽しさを知った。それが現在の活動にも活きている。

一方で、平成24年にはNPO「さとやま」の運営委員となり、平成26年からは理事を務めている。同NPOは、原則毎月第一日曜日に子ども健全育成や里山文

羽化をみるのは初めてでもきれいだっただけの音があがった。

流山市には、貴重な森が残されている。今回の自然観察会の最寄り駅・初石は、江戸川大学へのスクールバスの停留所がある流山おおたかの森駅の隣駅だ。じつは、同駅はオオタカが現在でも生息する約25ヘクタールにもおよぶ雑木林が駅周辺に広がっていることが駅名の由来。